

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第24回放送の概要 (2010年10月23日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬 悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 自分の母校じゃないけれど地元の高校をつい応援してしまう。赤い羽根共同募金はそんな気持ちに似ています。自分の街を良くする仕組み、赤い羽根。

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」、抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。今日は「神戸ルミナスホテル」様 (TEL:078-511-7700) のご協力を頂きました。

1. オープニング

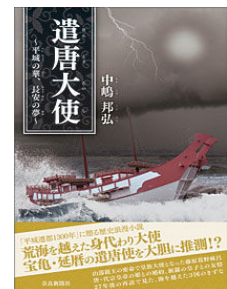
奄美大島の記録的な豪雨で3人が犠牲になられている。今日も午後から大雨の予報が出ている。昨日から陸上自衛隊が本格的な救援活動に入っているが被害の特にひどかった住用町の方々は大変だと思います。体調を崩されないよう祈っています。昨年の佐用町水害手伝いに行かれた門ちゃんからのコメントは、今回の映像を見ると佐用町と同じで川を溢れた濁流が家の中を通り抜けており今はどうしていいかわからない状態と思う。復興するには今後大変な時間がかかると思う。頑張ってくださいとしか言いようがない。心を折らず前向きに考えていってください。長田地域は奄美大島とのつながりが大きいので心配されている方が多いと思う。

今日は8月にゲスト出演していただいた兵庫高校の大前先生と放送委員会の女生徒4人が見学に来られています。

2. ゲストコーナー：中嶋邦弘さん (49 陽会)

今月のゲスト予定である兵庫高校OB合唱団、ユーカリプタスの本田啓之さんが体調を崩されたので、急遽先月紹介した日本図書館協会選定図書に選ばれた歴史ロマン小説「遣唐大使」を書かれた中嶋邦弘さんをゲストにお迎えしました。

遣唐使に興味を持ったのは井上靖さんの「天平の薨」の映画を見てかなりのショックを受けたこと。その後仕事で香港駐在し鑑真和上の来日を要請するために唐へ行った興福寺の栄叡 (ようえい) 大師が広東省で亡くなられ、「日本からやってきた遣唐使の碑」と書かれ記念碑を見て遣唐使の勉強をもっとしないといけないと思った。



遣唐使に関し記録があるのは日本書紀、続日本紀、続日本後記の3つによく書かれており、あ

とは唐の記録に少し残っているだけである。遣唐使で有名なのは安倍仲麻呂、吉備真備、そして隋の時代の小野妹子については隋の皇帝煬帝が激怒したことで有名な「日出する処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無しや、云々」との文言がある。皇帝は二度とこのような書面はもって来るなど言ったが、日本との国交は大事と思ったのか煬帝は遣隋使帰国に際し裴世清を送使として国書を持たせた。



遣唐使についてわかっていることはいつどこへ行った、帰ってきてこのような報告がされたという記録はかなり残っている。また行った人の日記が残っているものもある。小説のモデルにしたところについては帰国の時に遭難をしたとの1~2ページの報告がある。このような断片的な記録を基に想像をかきたてつないでいった。遣唐使は当時の国家予算の大部分を使った国家プロジェクトであり、唐より文化や国体を造り上げる情報を持ち帰る使命を帯びていた。戻ってきた人は2階級特進、亡くなった人は3階級特進した。吉備真備は身分は低かったが留学し勉強し、副使で唐へ行き鑑真和上を連れ帰り最終的には右大臣になった。

自分としては海外の異文化の中で苦労したことが昔遣唐使が苦労したことと合う部分があると思興味を持って調べ始めた。2年以上の調査後、ストーリーを考え文章にして書き下ろしに2年かかった。プロトタイプが出来たあと1年ほどかけて手を入れてやっと出版出来るようになった。プロトタイプが出来た時娘さんに読んでもらおうと言われこれは学術書だと言われたので、会話調に直しテレビドラマを想像し、場面がぱっぱと代わると登場人物は多分こんなことを言うだろうと想像し文章にした。事実を曲げることは書けないので記録に残っているところは脱線しないで落ち着くようにした。遣唐使の成果は律令制度に反映され、佛法の向上のため僧侶が随行している。空海（弘法大師）、最澄など日本の礎を作った使者であった。本来は英雄と考えても良いが歴史の勉強の中でも主流ではなくマイナーに扱われている。注目され始めたのは高度成長期だと思っている。今丁度平城京遷都1300年の時期でタイムリーな出版になった。

遣唐使は200~300年の間に20回も派遣されている。しかし実際に任命しただけで行かなかった者、船が壊れて行けなかった者もいる。遣隋使は4回行っている。更にさかのぼれば西暦57年に後漢の光武帝のところに奴国（日本）から使者が行き、「漢委奴国王」の金印を賜ったがそれが1784年に福岡県の志賀島で発見されている。西暦238年には魏の皇帝から邪馬台国の女王・卑弥呼に対して「親魏倭王」称号が与えられたとされるが、授けられたとされる金印は見つかっていない。

遣唐使が使用した船は現在平城宮跡に復元され、長さ30mで多い時は160人ほど乗船し、船底で雑魚寝していたと思われる。天候の変化が掴めず大量の荷物があり沈んで当然のような状況で唐に向かった。小説では3つの航路のうち東シナ海を横断し直接中国大陸に渡る航路（南路）をとった。朝鮮半島沿いの沿岸を進む航路（北路）は対馬から朝鮮半島南岸を進むもので比較的安全であるが、新羅と争ってからは庇護が受けられなくなった。奄美・沖縄など南島を経由する航路（南島路）は風に流されて南、南へ行った結果できた航路であるというのが主流の見方になっている。日本の西端五島列島から直接現在の上海を目指して航海し、最短は3日という記録がある。長い場合で2週間、平均7日というデータがある。20回の遣唐使派遣で6200~6300人が唐に向かい上陸したのは5200人だと言われている。かなり多いようだが帰途は風に逆らうので遭難する危険が高い。乗組員160人のうち半分は船員で残りは留学生、技術研修生、政府の使者で長安まで行くことが出来る人たちである。乗組員達は今の上海近郊で留め置かれていたがその間仏教のメッカといわれている五台山に登ったりした。当時の官位の五位以上が貴族で六位以下は雇い人（官人）であり、遣唐使で功



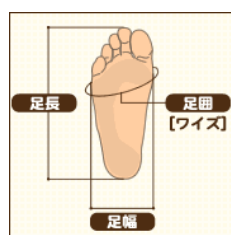
績を残せば五位になれる。遣唐使は命がかかっているので断った人、島流しになった人、処分されなかった人などがいる。

中嶋さんは非常にロマンチストで「遣唐大使」は楽しく読むことが出来る。奈良新聞社より『遣唐大使～平城の華、長安の夢～』ということで1890円で発売されています。

3. コアラさんの地域瓦版

明日、東尻池郷土館で10時～12時に兵庫高校総合科学類型の生徒達(1年7組6班)が「広げよう地域の輪」ということで私たちと野菜を育てませんかというイベントを行います。軍手、タオルを持参し手伝いに来てください。大根、ホウレンソウ、白菜、水菜、春菊など鍋用の野菜を育て12月に収穫し鍋パーティを開催する予定です。

学校で使用する上履きが今の子供達の足に全く合わず足にとってとても悪い。足は体を支えるのに重要で、昔日本人は幅広、甲高と言われたが今は薄くて幅の広くない足になっている。しかし規格はそのまま使われている。大きくなるので少し大き目を履くようによく言うが良くない。親指の外反母趾の出来るところから小指までの甲のアーチと甲の一番高いところの3点で靴は止まる。通常靴を合わせるときは立ち姿勢でつま先が当たらないかチェックしているが、そうではなく座ってかかとをトントンし、足指が広がって動くか、また靴には捨て寸というのがあり例えば23センチの靴は24センチに作られているので大きめに買う必要はなく、従ってつま先で合わせると良くないことになる。



4. 来週のゲスト

長田中学の播磨大作先生にお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com